

平成28年熊本地震による 「陸軍隈庄飛行場油倉庫・弾薬庫」の被災状況

油倉庫

震災前



地震前の油倉庫の様子

油倉庫は、建築物本体がコンクリートブロック積み上げ壁、屋根はコンクリート造、桁行^{けたゆき}15.4m、梁行^{はりゆき}4.3m、屋根高2.5mを測る。単独3部屋構造で、正面には片開鉄扉・換気孔、裏面には両開鉄製窓、下側に換気孔も設置されている。今回の地震で建物は西南側壁2カ所が大きく崩落し、東側に緩く傾き、応急危険度判定では「危険」（赤紙）となった。



壁崩壊状況



西側被災の様子



北側被災の様子



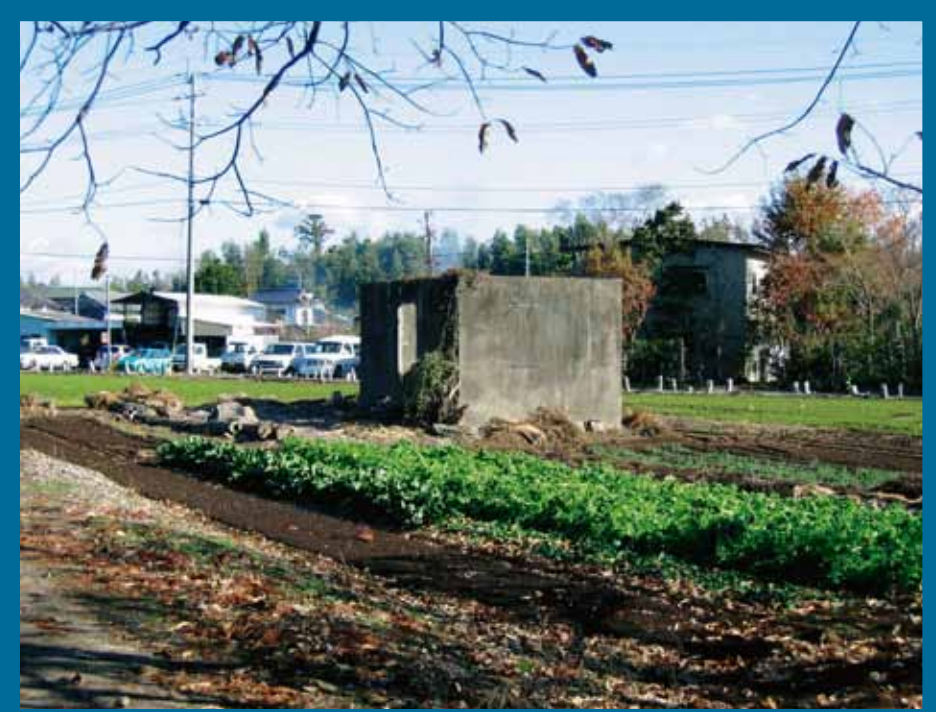
西側被災拡大



東側壁の亀裂

弾薬庫

震災前



地震前の弾薬庫の様子

弾薬庫は建築物本体がコンクリート造で、桁行^{けたゆき}5.1m、梁行^{はりゆき}3.9m、屋根高3.1mを測り、入口に大型下屋を設けていた。屋根は軽量のトタン葺きで爆発時には、本体が壊れないような「放爆式」の設計である。今回の地震で入口上部に亀裂が入った。



地震で正面上部に亀裂が入る



裏面への被害は見られない